



森本 貴之 議員

慶應大学との連携をどう生かすか

町長

つながりの豊かさ指標や知見を活用する

【森本】 少子人口減、高齢化が進むなか、その対策は喫緊の課題である。新規事業の、慶應義塾大学SFC研究所との連携をどう生かすか。

【町長】 大学教授からアドバイスを受け、「つながりの豊かさ指標」や、その知見を活用して本町の地方創生に取り組み。

【森本】 具体的な活動は。

【町長】 「子どもと楽しいまちプロジェクト」を立ち上げる。

子どもと高齢者・地域をつなぐなどの施策を実施し、特色あるまちづくりによる、誰もが暮らしやすい町をめざす。

【森本】 安心して暮らせる町でなければならぬ。小地域福祉活動のあり方をどう考えるか。

【町長】 地域共生社会を実現するため、必要な活動である。

より多くの集落に取り組みでもらえるよう事務の簡略化をはかり、さらに推進していく。

完全給食化のメリットは

教育長

あたたかいご飯を食べられる

【森本】 保育所で完全給食化となるが、前体制と比べてのメリットは。

【教育長】 園児全員があたたかいご飯を食べられることや、保護者の弁当を持たせる負担がなくなることだ。

【森本】 ご飯を持つていくことで、子どもの体調や成長に接する仕組みがあった。今後どう考えていくか。

【町長】

コミュニケーションはご飯を持っていくだけでは足りない。朝、晩の食事を家族で過ごしてほしい。

また、お弁当の日を設けることで、特別感のある愛情を感じてほしい。



たくさん食べて大きくなるよ

区長業務へのサポート体制は

町長

総合窓口室へ相談を

【森本】 施行予定の機構改革の目的は。

【町長】 業務の効率化や、住民サービスの向上をはかることが目的である。

【森本】 機構改革にあたり、議員と語る会の要望でも出ていたが、区長業務へのサポート体制は考えられないか。

【町長】 総合窓口室へ相談してほしい。

【森本】 地方公共団体に対して、国が相談窓口を設ける地方創生コンシェルジュ制度がある。基礎自治体版として、区長業務専門の窓口を設けてはどうか。

【町長】 どのような形になるかわからないが、検討する。



多岐にわたる集落活動